

第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS13）開催報告

テーマ：人類の時代における河口域および沿岸域 ～構造、機能、サービス、管理～

（公財）国際エメックスセンター（EMECS）では第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS13会議）を、イギリスに拠点を置く河口域・沿岸科学学会（ECSA）との共催により「ECSA58-EMECS13会議」として、2021年9月6日（月）から9日（木）までの4日間にわたりオンラインにて開催しました。この会議は昨年9月にイギリスのハル大学にて開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により延期となり、最終的にオンラインでの開催が決定したものです。

会議には「人類の時代における河口域および沿岸域～構造、機能、サービス、管理～」をテーマに開催し、47ヶ国から450名の研究者や行政関係者等の参加がありました。日本からは鈴木基之国際エメックスセンター会長、松田治国際エメックスセンター副理事長をはじめ、閉鎖性海域や沿岸域、河口域に関わる研究者等、58名の参加がありました。

残念ながら会議内の全てのセッションがオンラインでの配信となりましたが、会議中は30の特別セッションおよび分科会が開催され、10の基調講演、277の口頭発表、そして86のポスター発表が行われました。

また、国際エメックスセンターが主催する3つの特別セッション「ICM（統合的沿岸管理）と里海セッション」「海洋プラスチックセッション」「青少年環境教育交流セッション」についてはハイブリッド方式（オンライン型および来場型）で開催することとし、神戸ポートピアホテルに会場を設けてご来場いただいた一般参加の方々にオンライン配信をご覧いただきました。

会議プログラム（日本時間）		
2021年	（午後）	（夜）
9月6日（月）	開会セッション	分科会、ポスターセッション①
9月7日（火）	エメックス特別セッション「ICMと里海①」 分科会	分科会、ポスターセッション②
9月8日（水）	エメックス特別セッション「ICMと里海②」 同上「海洋プラスチック」 分科会	分科会、ポスターセッション③
9月9日（木）	エメックス特別セッション「青少年環境教育 交流セッション」 分科会	閉会セッション

□会議名称

第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（ECSA58-EMECS13会議）

□テーマ

人類の時代における河口域および沿岸域～構造、機能、サービス、管理～

□開催期間

2021年9月6日（月）～9日（木）

□開催方法

オンライン開催

(エメックス特別セッションはハイブリッド開催)

□主催

(公財) 国際エメックスセンター (EMECS)

河口域・沿岸科学学会 (ECSA)

■開会式・開会セッション

9月6日(月) 15時45分から開会式が行われました。ECSA 代表の Mike Elliott 氏による歓迎の言葉に続き、当センター科学・政策委員長の渡邊先生から EMECS の歴史やエメックス会議等の紹介、そして ECSA の Sally Little 氏から同学会についての紹介がありました。その後、昨年5月に逝去された ECSA 関係者、Victor de Jonge 氏への追悼メッセージに続き、岡山大学准教授の齋藤光代氏による基調講演「Potential impacts of groundwater-borne nutrients on coastal areas in changing human activities and climate」(人間活動や気候の変化に伴う、沿岸地域における地下水を介した栄養塩への潜在的影響)が行われました。

開会セッション後、「川の源流から海へ：全地球的变化における河川・海のシステム」、「沿岸湿地の安定性、変化と生態系サービス」をはじめとする9つの分科会が開催され、多くの発表者および視聴者が参加しました。

■エメックス特別セッション「ICM(統合的沿岸管理)と里海①」



9月7日(火) 15時45分から、神戸ポートピアホテル「レインボー」にて、柳哲雄氏(九州大学名誉教授)が座長を務めるエメックス特別セッション「ICMと里海①」がハイブリッド方式にて開催されました。柳教授による「日本の里海における関係性の価値」、松田治氏(広島大学名誉教授、国際エメックスセンター副理事長)による「EcoDRR(生態系を活用した防災・減災)とICM(統合的沿岸管理)を促進する里海の可能性」、Kevin Scribner氏(米国・サーモンセーフ)による「サーモンセーフ：人間とサーモンの関係性～山から海へ～」をはじめとする5名が、里海概念を取り入れた国内外の研究や実践の発表を行いました。また、古川恵太氏(NPO 法人海辺づくり研究会理事)をはじめとする8名から、ベルモントフォーラムの支援により国内外の海域で実施されているプロジェクト「Coast Card」について発表がありました。

なお、日本国内の発表者のうち4名が神戸に来られ、会場にて発表されました。

■エメックス特別セッション「海のプラスチック」ICM(統合的沿岸管理)と里海②」

前日の「ICMと里海①」に続き、エメックス特別セッション「海のプラスチック」ICMと里海②」を神戸ポートピアホテルの2会場において、ハイブリッド方式で開催しました。

「海のプラスチック」では日向博文氏（愛媛大学教授）と田中周平氏（京都大学准教授）の共同座長のもと、磯辺篤彦氏（九州大学教授）による「海洋浮揚性マイクロプラスチックのモニタリングとモデリング」、Yanfeng Li氏による「中国・北部黄海のシシリ湾におけるマイクロプラスチック汚染の季節的变化」を含む10本の発表が行われました。

「ICM と里海②」では前日に続き柳座長のもと、行木美弥氏（環境省閉鎖性海域対策室長）による「瀬戸内海の水質管理と生物生産性の両立に向けた日本の活動を振り返る」をはじめとする3本の発表が行われました。

■「青少年環境教育交流セッション」



会議最終日となる9月9日（木）は、高校生を対象にした「青少年環境教育交流セッション」が開催されました。これは当センターが第6回エメックス会議（2003年、タイ・バンコク開催）以降、毎回開催しているセッションです。

今回は日本から6名、イギリスから5名、ドイツから4名の合計15名の高校生が参加し、日本は川井浩史氏

（神戸大学特命教授）、イギリスはMike Elliott氏（英国・ハル大学教授）、Tim Jennerjahn氏（ドイツ・ライプニッツ熱帯海洋研究センター・ワーキンググループリーダー）を共同座長として、海洋のごみやマイクロプラスチック、原油流出等、様々な内容の研究発表を行いました。

発表後は各座長と発表者の間でディスカッションが行われ、研究内容を選んだ理由について等の質疑応答がありました。

日本人高校生の発表動画を下記URLよりご覧いただけます。

<https://www.emecs.or.jp/topics/emecs13ssp>



■分科会、ポスターセッション

会議期間中は特別セッションを含む30の分科会と3つのポスターセッションが行われましたが、共催団体のECSAが拠点とするイギリスとの時差の都合上、日本では連日15時45分から翌朝4時頃までが開催時間となりました。

分科会の各テーマは世界の流域や河口域、沿岸域、そして海洋における環境保全や再生、課題、管理等、多岐に渡る内容で開催されました。

また、時差の関係やインターネット環境の状況を踏まえて、ライブ発表だけでなく事前録画による発表がありました。

■閉会セッション

9月9日（木）21時30分から閉会セッションが開催されました。ECSAから学生発表者の優秀発表賞が発表された後、EMECSからはEMECSベストポスター選考委員会を代

表して David Nemazie 氏（米国・メリーランド環境科学センター長首席補佐官）から一般発表の優秀ポスター発表者 3 名が発表されました。

その後、渡邊正孝氏（中央大学教授、エメックス科学・政策委員長）から分科会や特別セッション、青少年環境教育交流セッション等について会議の総括が行われた後、会議を終了しました。

各発表のアブストラクトはこちらから

<https://www.emecs.or.jp/en/world/presentationtext>

青少年環境教育交流セッションに参加した日本人学生の発表動画は
こちらから

<https://www.emecs.or.jp/topics/emecs13ssp>